

【普通作物】の【長雨・日照不足】対策について ＜6月＞

農業経営支援課

【早期水稻】（幼穂形成期～出穂期）

（1）予想される被害状況

- ① いもち病が発生しやすくなる。
- ② 生育が軟弱となり、根の活力が低下する。

（2）事前対策

- ① 長雨下での液剤や粉剤防除は時期を逃しやすいが、散布後に薬剤が乾けば効果はあるため、天候をよく確認しながら防除を行う。なお粒剤を使用する場合は、多雨での流出（オーバーフロー）に注意する。
- ② 葉色の濃いほ場では追肥量を減らしたり時期を遅らせる。
- ③ 間断かん水で根の活力維持を図る。

（3）事後対策

- ① 出穂前のいもち病防除は、時期を逃さないよう計画的に行う。
- ② 浸水等でほ場に流入しているゴミは早めに取り除く。

【普通期水稻】（育苗期～分けつ期）

（1）予想される被害状況

- ① 苗が軟弱徒長になりやすい。
- ② 苗立枯れ病やいもち病の病害が発生しやすくなる。
- ③ 軟弱苗を移植した場合、本田除草剤の影響を受けることがある。

（2）事前対策

- ① 育苗ハウスの換気を徹底する。
- ② 苗箱の床土が過湿とならないよう、かん水量を減らす。
- ③ 徒長した苗は、葉先を剪除する。
- ④ 移植後、余り苗はいもち病が発生しやすいので直ちに処分する。
- ⑤ 苗が軟弱な場合は本田除草剤の散布は、使用範囲の中で遅めにする。

（3）事後対策

- ① 苗立枯れ病やいもち病の防除を遅れないように行う。

- ② 浸水等でほ場に流入しているゴミは早めに取り除く。

【大豆】（播種期）

（１）予想される被害状況

- ① 播種作業が遅れ、収量が低下する。
- ② 湿害による発芽障害や生育不良が発生する。

（２）事前対策

- ① ほ場周囲及び畦間に排水溝を設置する。
- ② 播種時期の遅れに応じて、栽植密度を高めたり播種量を多くする。
- ③ 発芽率向上のため播種時には、種子粉衣は必ず行う。

（３）事後対策

- ① 発芽不良や欠株が多い場合は、早めに追播きを行う。
- ② 雑草が多く残った場合は、茎葉処理剤で除草する。